

[岩手大学を訪ねて]

— 2011年10月24日 岩大訪問記 小南 —

10月22日に高校の同期会があり湯沢に帰った。何しろ卒業後49年も経ち、一見誰だか判らず名札に眼をやりながら話を切り出す始末でした。それでも3次会まで付き合い、ホテルに一泊して迎えの車で実家に帰った。その日は、あまり好天とは言えませんが、紅葉を観に小安峡、栗駒、泥湯温泉などをめぐりました。そして翌日、車まで大曲まで送ってもらい、熊谷までの切符を買ったのが朝の8時半で、ふと思いついたのが今回の母校訪問である。まずは、女鹿さんに電話してみよう。突然の電話にもかかわらず、女鹿さんが快く都合をつけてくれることになったので、盛岡途中下車を決め10時頃に駅前で待つ事にした。

盛岡に降り立ち荷物をロッカーに預け、駅前でキョロキョロしていると、女鹿さんが何と伊藤さんを伴って迎えに来てくれたのであります・・・「頼りになる女鹿さん、伊藤さん、ありがとう！」

これで今日は、楽しくなりそう・・・突然に訪ねた迷惑も忘れて、密かにこう思ってしまった。

重ねてのご迷惑ついでに、また備忘録短歌を添えて岩大訪問記を作成してみました・・・



- 須川湖の紅葉散りて寒々と 黄葉とどまりて湖面に映える
- 須川湖の水面に写る残雪は 思い出繋ぐ踏み石の如くに
- 馬草岳残雪浮かぶ須川湖の 澄みて静なる心持ちたし



- 紅葉を欄干に寄り見下ろせば 木々のまにまに旧登山道
- 雲間より光一筋山射して 秋のパノラマ照らし過ぎ行く
- 谷渡る大橋に立ち見渡せば 紅葉を縫う七曲道



- 紅葉の秋の水深し皆瀬ダム 水門閉じて谷上る水
- 岩棚の湯煙低く留まりて 煙頬撫で秋風の過ぐ
- 帰る毎背中丸まる兄の横 少し膝折り写真に納まる



- 釣り人が舟浮かべたる桁倉の ^{もみじ}紅葉濡れにし秋雨の止む
- 河原ゲは不毛の山ぞ地獄絵図 硫黄噴出し止まず息づく

< 10月24日朝9時40分 盛岡駅に降り立つ >



ふるさとの山に向かいて
 言ふことなし
 ふるさとの山はありがたきかな

< 確かこの歌碑は駅前広場にあったはずだが・・・ >

- 盛岡で友を待ちつつ見渡せど いづこに移らむ啄木の歌碑
- 盛岡の駅に降り立ち友を待つ 開運橋は何処で待つやら
- 学生に何故か優しい盛岡の 上田通りの店の人いかなに
- 学生におやじ気遣う空腹を 上田通りのおにぎり寿司屋
- 上田路の飲み屋の夫婦気炎上げ 冬の夜更けにスロームに来し



< 現在の岩手大学構内 >



- 夕映えて裾野広げし岩手山 屋上で飲みし隠れ酒かな
- 学び舎の屋上のドア鍵締り 裾野紅葉かああ岩手山



- 構内で会う人ごとに尋ねども 四十二年経て知る人もなし
- 「どちらさま」問われるほどに三人は 知る人もなく行きつ戻りつ
- ただ一人知る師ぞ居て訪ぬれば 学内全て案内いただく

<こんな状況で、問いかけてくれた職員に柏葉先生とコンタクトしていただいた次第です。>

< 柏葉先生に大学構内を案内していただけることになりました。>



□ 吾が職の縁結びける先生の 銅像を押し謝意をつぶやく



□ 傾きて板壁破れし同袍寮 囲む木々見て臉に描く

□ ガタゴトと下駄の音聞こゆる同袍寮 木のざわめきに賑わい偲ぶ



□ 部屋ごとに薪運び込み冬備え

空腹のままに蕎麦競い食う

□ 上田路の風呂屋を出でしタオル振る

寮に着く間に凍てついて立つ

□ 銀月の梅割飲みて駆け戻る

夜風頬などで人恋うる秋

□ 秋の日の渋民村は遠い里

ペダルを踏みて啄木めぐる

□ 学内に立て看板もビラもなし

若きうたごえ無きぞ淋しき



□ 学生歌「上田の森になりわたる」

賢治たたきしあの鐘の音よ

□ キャンパスの木々色づきし昼下がり

華やぐ女子も急ぎ講義へ

□ 食堂のメニュー豊かで賑わいし

時の隔たり感じつつ過ぐ



□ 畜舎にて家畜を集めし鐘の音は 上田の森に時を告げる



< 奥に見えるのが同袍寮 >



□ 学内の賢治が暮らせし 自啓寮木立が囲む坂下に今



- 石積みの旧正門はデンとして 守りて百瀬大学の自治
- 八方の窓閉ざせどもここに建ち 通る人見し旧門番所
- 賢治詠む若木の檜ここに立ち 百瀬の間の移ろい知るや

■ あわれこは 人にむかへるころなり ひのきよまこと なれはなにぞや
 <賢治が詠んだ「みふゆのひのき」12首の最後>



□ 学内の賢治が田んぼ既に無く 当時を偲ぶ大講堂よ

< 先日 (10/29) NHK BS で「宮沢賢治の音楽会」という特集番組が放映されました。>

- 講堂の賢治がピアノとゴージュのテェロが 宇宙へ誘う星めぐり歌
- つめ草の花咲く晩に音楽会 ポラン広場は賢治が夢か
- 賢治が詩「耕母黄昏」ロずさむ 手にあかぎれの亡母の夕餉よ

< この番組で「宮沢賢治の宇宙観」に触れることができたような気がしました。>

(11/23 AM9:30 NHK 地上 D で短縮版が放映予定)



□ 啄木の節子生家やつるべ井戸 産湯使いし上田新小路



- 岩手山朝日反射し雪化粧 吹雪続きて学友連れ逝きし
- 学内に TENT を張りて鍛錬す 学友に厳しき吹雪恨めし
- 学友の四つ並びし棺には 真白き顔に凍傷の跡
- 学友と別れを惜しみ集い来て 二階の講堂軋み泣き居り



□ 「どちらさま」問われるほどに三人は 知る人いなく行きつ戻りつ
 <こんな状況で、問いかけてくれた職員に柏葉先生とコンタクトしていただいた次第です。>



□ 後手に土を見据える賢治像 震災の地を如何に憂えむ



- 彼の人とボート漕ぎ出づ桜映え ^{もみじ}紅葉また佳高松の池
- 羽音たて飛び立つ鴨と着水に 見とれて秋の高松の池
- 岩手山越えし木枯らし頬を刺す 夜のスケート高松の池

お昼時を大幅に過ぎ、柏葉先生に学内レストランに案内いただきました。冗談半分に「ビールありますか」と訊ねると、何とビールとお酒のメニューが出てきたので驚いたが、さすがにコーヒーで我慢した。その後、高松の池を廻り盛岡駅に到着したら、女鹿さんがモバイル・パッドで「こっから舞」という秋田民謡を見せてくれた。紙面の都合でご紹介できませんが、素朴なエロチズムな歌と舞なのである。というより駅前駐車場で、画面を覗き込む男三人が怪しげに見えたかも知れない。

こんな楽しい旅は、快く迎えてくれた友と案内いただいた柏葉先生のお陰と深く感謝しております・・・